

火災防災通信システム

取扱説明書

NEシステムズ

平成24年 9月

ご注意およびお願い

- 本取扱説明書の一部あるいは全部をNEシステムズの許可なく無断転載することは禁止します。
- 本取扱説明書の内容に関して、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本取扱説明書の内容について、ご不明な点、誤り、記載漏れ等お気づきの点がありましたら、NEシステムズまでご連絡ください。
- 本システムを運用した結果の影響に付きましては、前項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- 文中のMS-DOSシステム、Windows、WindowsXp、Windows7は米国マイクロソフト社の登録商標です。
- 一般に、各会社名や各製品名は各社の商標または、商標登録です。

はじめに

火災防災警報通信システムをご購入頂きまして誠にありがとうございます。
本取扱説明書をお読みになり、本システムについてご理解を深められますようお願い致します。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、本書を大切に保管してください。

火災防災警報通信システムは、火災防災警報システムからの情報を基に、その発生情報のモニタ表示、印刷および携帯情報端末へのメール送信を行うものです。

1991年よりご利用頂いてきた北海道テレメッセージ株式会社様・NTTドコモ様のポケットベルを使用した旧システムを更に進化させた本システムが、火災防災の管理を行う方々の負担を軽減し、緊急時の迅速な対応に少しでもお役に立てば幸いです。

1 火災防災警報通信システムの概要

1-1 火災防災警報通信システムの構成

火災防災警報通信システムは、火災防災警報システムからの火災防災情報を収集する火災防災警報通信装置（LS-FPA256）、収集したデータをデータ処理装置に送信する火災防災情報収集ユニット（NES-256）、火災防災データ収集配信装置からの情報を分かりやすく表示、内容の印刷および情報の発信を行うデータ処理装置（パーソナルコンピュータ）、発信した情報を表示する携帯情報端末で構成されています。

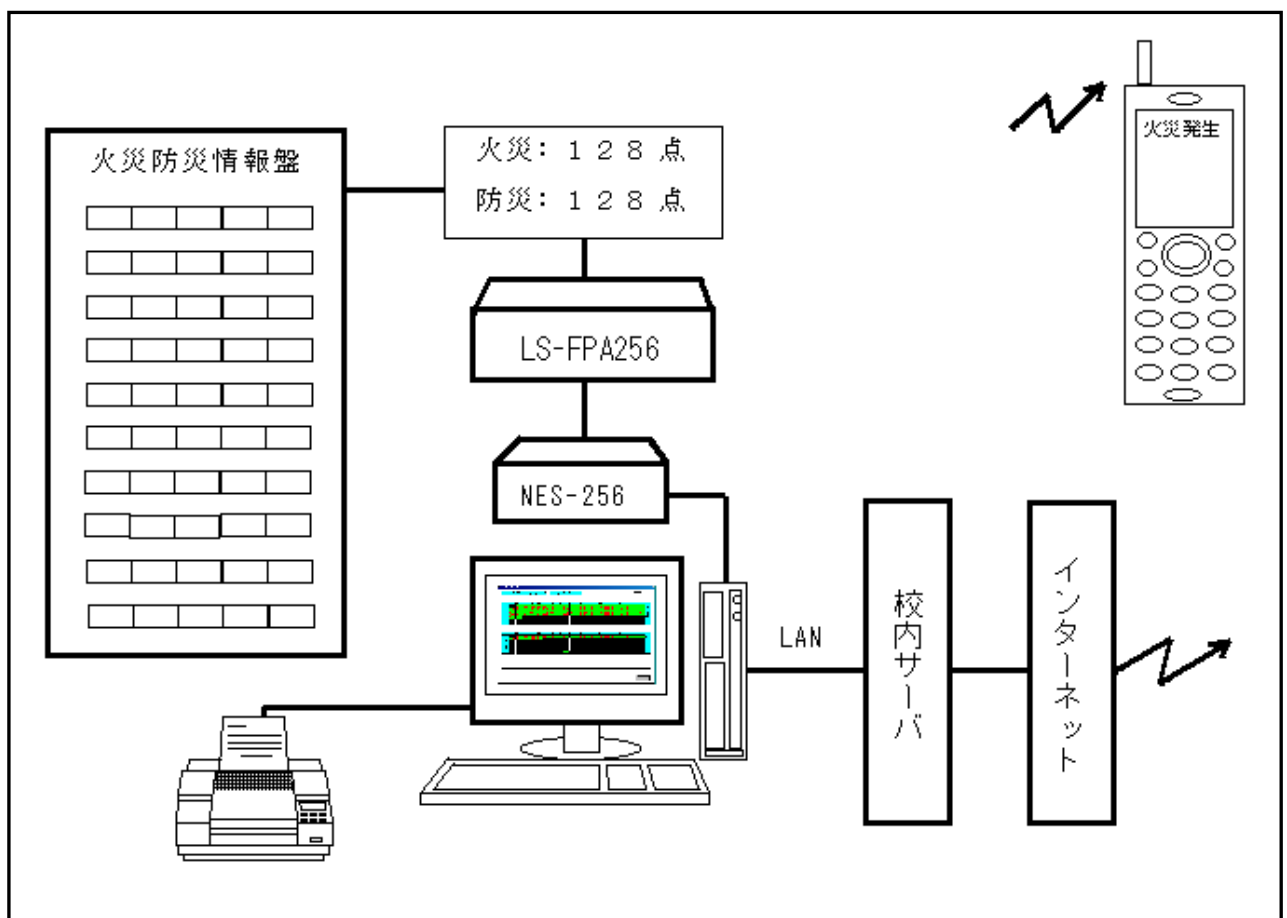


図1 システム構成図

本システムが取り扱うことのできる最大入力情報数は、火災情報・防災情報それぞれ128点、合計256点です。

1 火災防災警報通信システムの概要

1-2 システムを構成する機器について火災防災警報通信システムを運用するためには、次の機器が必要となります。

ご用意される場合には、次に挙げる機器の仕様に準拠し動作することをご確認ください。

◇パーソナルコンピュータ

DOS/Vパーソナルコンピュータです。

火災防災警報通信装置を接続するRS-232C1ポート、メール送信を行うためのLAN1ポート、プリンタを接続するパラレルポートが必要です。

また、構内ネットワークと接続するために、IPアドレスや接続するサーバ名、メールアドレス等が必要となりますので、ネットワーク管理者に予め確認をお願いします。本システムは、構内ネットワークを介してインターネットへ接続されます。

なお、動作に必要なPCの最低限のスペックは以下の通りです。

プロセッサ 1GH、メモリ 512MB、ハードディスク 20GB

◇モニタ

1024×768ドット、256色以上表示可能なものを使用します。

◇プリンタ

WINDOWS Xp で使用可能な、A4サイズ of 用紙を印刷することができるプリンタを使用します。通常は2枚連続で出力しますので、オートシートフイダ機能付きの物を使用します。

◇携帯情報端末

本システムで収集したデータをメール受信するための端末です。メール受信機能を持った端末を使用します。

◇Windows Xp (SP2以上を推奨)

本システムのソフトウェアが稼動するためのOSです。火災防災警報通信システムソフトはこのOS上で動作します。

◇構内ネットワーク

本システムから発信するメールを送信するために必要です。

1-3 停電について

本システムは、24時間の運用を前提としています。停電によるシステムの停止を避けるためにも無停電電源装置をご使用することをお勧めします。

2 火災防災警報通信装置（LS-FPA256）

火災防災警報通信装置は、火災防災情報システムからの警報情報を収集し、防災情報収集ユニットにデータを送る装置です。

火災防災警報通信装置の内部は、入力16点リレー制御基板が16枚で構成されています。合計256点のリレー入力になっています。

火災防災情報システムの各種類の受信器に対応し、防災情報収集ユニットへ送る情報を一元化するためのインターフェース装置です。

各受信器からの情報をリレーで受信するため、接続する各機器への影響が最小限になるようになっています。

火災防災情報収集ユニットとの接続は専用平行ケーブルにて行います。

3 火災防災情報収集ユニット（NES-256）

火災防災情報収集ユニットは、火災防災警報通信装置からの256点の火災防災リレー情報を収集・編集し、そのデータを、状態監視し警報発生時にメール送信を行うデータ処理装置へ、データを送信するための装置です。

データ処理装置との接続は専用シリアルケーブルにて行います。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

火災防災警報通信システムソフトは、火災防災警報通信装置で収集した各受信器からの情報を、火災防災情報収集ユニットで編集・送信されたデータを元に状況のモニタ表示、印刷、携帯情報端末へのメール送信等を制御するためのシステムソフトです。本ソフトウェアの機能および操作方法は以下の通りです。

4-1 火災防災警報通信システムソフトの起動

- 1) ネットワークケーブルがデータ処理装置に接続されていることを確認します。
- 2) プリンタの電源を入れます。用紙をセットしプリンタを印刷可能状態にします。
- 3) データ処理装置を起動します。OSが起動し、続いて火災防災警報通信システムソフト（以下システムソフト）が起動し、図2を表示します。

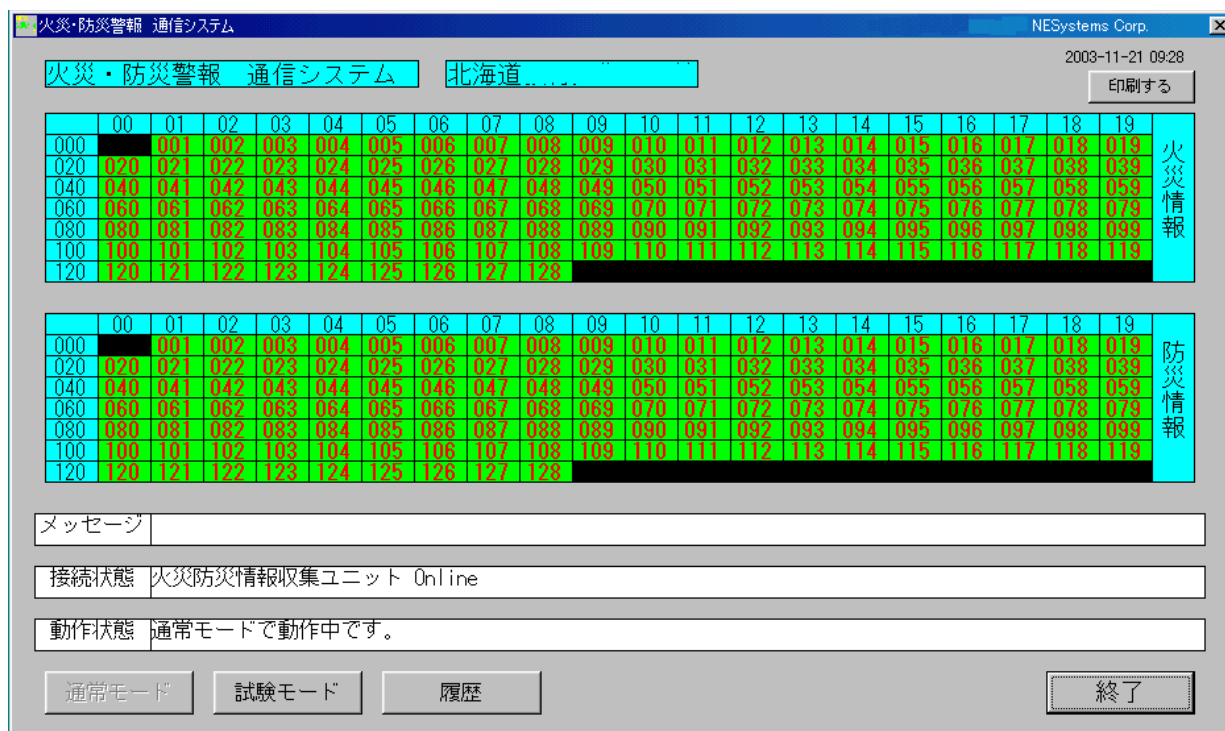


図2 システムソフト起動画面

この画面で、火災防災警報システムの状態監視を行います。
火災情報、防災情報ともに最大128箇所の監視を行うことができます。
図2は監視する火災情報、防災情報がともに最大に設定されている状態を示しています。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

4-2 画面の説明

画面の構成について説明します。

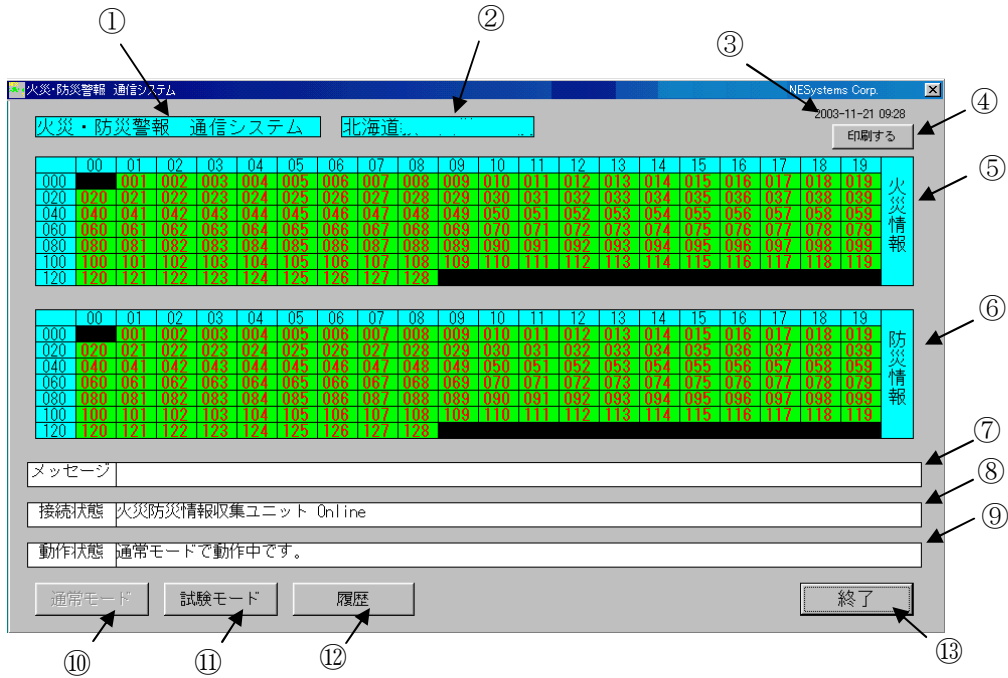


図3 画面の説明

- ①火災防災警報通信システムソフトの名称を表示します。
- ②本システムをインストール先の名称を表示します。
- ③現在時刻を表示します。この時刻は、データ処理装置のシステム時刻です。
この時刻を修正する場合には、コントロールパネルの日付と時刻を使用して修正してください。
- ④発生した情報を印刷するかどうかを切り替えるボタンです。起動時には、印刷する状態になっています。通常はこの状態で運用します。
- ⑤火災情報の状態を表示する欄です。警報が発生すると該当する欄が緑色から赤色に変わり発生状態を確認できるように表示します。警報が解除されると該当する欄は赤色から緑色に戻ります。
- ⑥防災情報の状態を表示する欄です。警報が発生すると該当する欄が緑色から赤色に変わり発生状態を確認できるように表示します。警報が解除されると該当する欄は赤色から緑色に戻ります。
- ⑦発生した火災および防災警報の発生時刻、情報番号、情報内容を表示します。警報が解除されると表示欄は空白に戻ります。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

- ⑧接続している火災防災情報収集ユニットの状態表示と、試験モード時の火災防災情報収集ユニットの通信状態を表示します。
- ⑨通常モードか試験モードのどちらか動作している状態を表示します。
- ⑩通常モードで運転中の場合には、このボタンは操作できません。試験モード時に通常モードに戻る場合に操作できるようになります。
- ⑪通常モードから試験モードに移る場合にクリックします。試験モードで運転中の場合には、このボタンは操作できません。通常モード時に試験モードに移る場合に操作します。
- ⑫火災防災情報の発生状態の履歴を表示する場合に操作します。
- ⑬火災防災警報通信システムソフトを終了する場合にクリックします。

4-3 火災防災警報通信システムソフトの動作

4-3-1 通常モード（通常運転状態）

本システムソフトを起動した状態で、実際に火災防災警報を取り込むと、モニタ画面は図4のように該当箇所が緑色から赤色に変わり位置を表示します。続けて、OSにセットアップされたメーラーソフトを起動し、携帯情報端末にメール送信を行います。

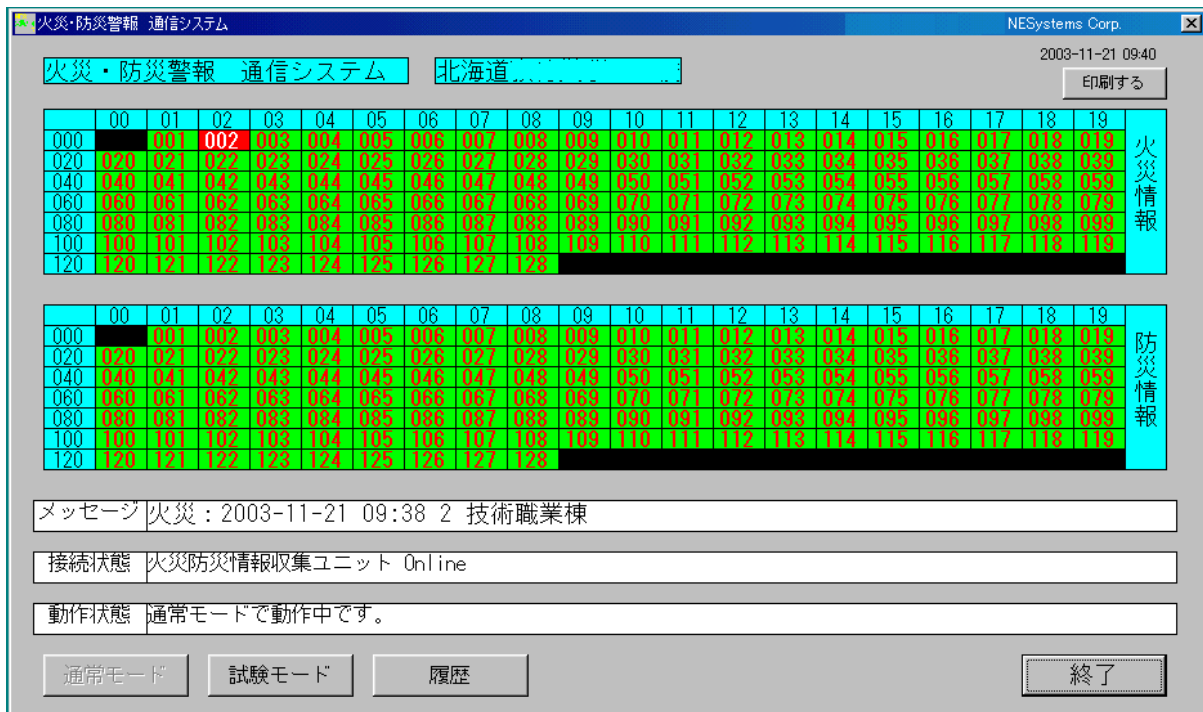


図4 火災防災警報発生画面

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

同時に発生した火災防災警報の発生時刻、該当番号、発生内容をメッセージ欄に表示します。また、通常の状態では右上の印刷するボタンは‘印刷する’を表示しているので印刷を行います。

印刷は通常モードの場合には、メッセージ欄と同じ内容で印刷を行ない2枚出力します。

火災防災警報が複数発生した場合にはこれらの動作を発生順に繰り返します。発生していた火災防災警報が復旧した場合には、該当箇所が赤色から緑色に戻ります。

4-3-2 印刷について

右上の‘印刷する’ボタンをクリックすると火災防災警報発生時の印刷処理を行うかどうかを切り替えることができます。

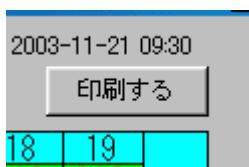


図5の状態では、印刷処理を実行します。

この状態で、このボタンをクリックすると図6の状態になります。さらにクリックすると元の状態に戻ります。

図5 印刷する

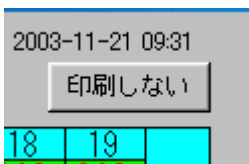


図6の状態では、印刷処理を実行しません。通常は印刷処理を行いますので図5の状態になるように、このボタンをクリックしてください。

図6 印刷しない

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

4-3-3 試験モード (試験運転状態)

試験モードボタンをクリックすると試験モードになります。

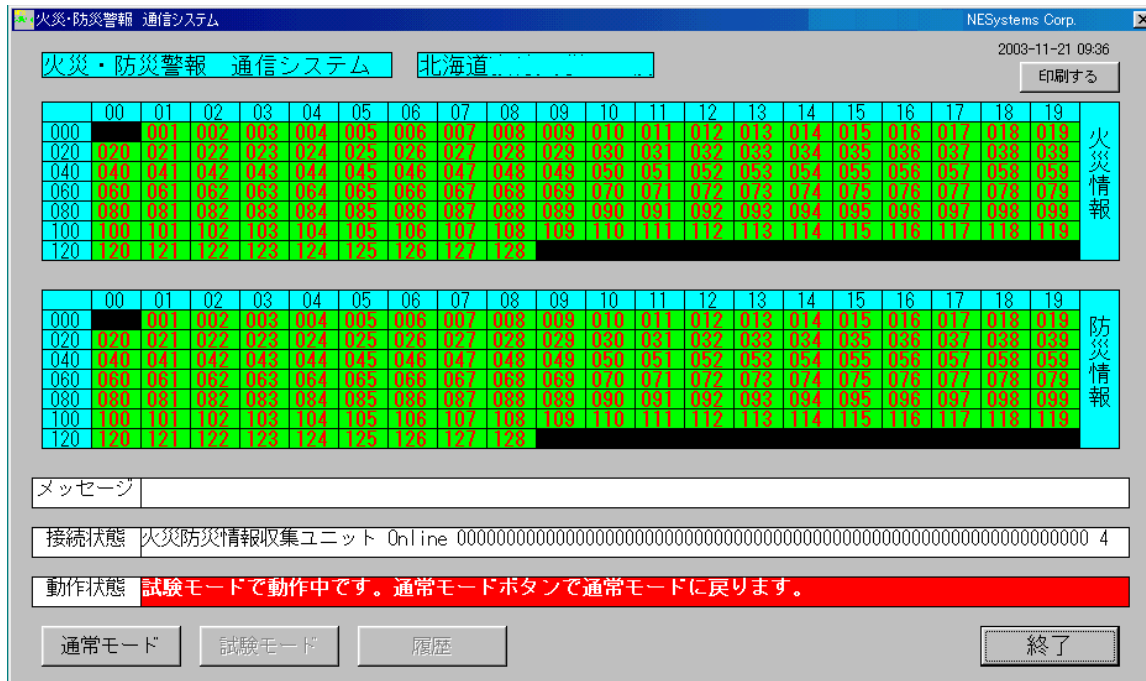


図7 試験モード画面

火災防災警報を取り込むと通常モードと同様に、該当箇所が緑色から赤色に変わり位置を表示します。この後、通常モードではメール送信を行います。このモードでは送信しません。

発生内容は、‘印刷する’モードになっている場合には印刷することができます。この場合、個別に印刷するのではなく、一枚の用紙に発生順に連続印刷します。用紙に一杯になるか、通常モードに切り替えた場合（試験モードを終了した場合）に、発生した内容のメッセージを印刷します。

これは火災防災システムの受信機の動作確認試験を本システムソフトを利用して行うためです。

接続状態の表示欄には、火災防災情報収集ユニットの収集したデータを表示します。

動作状態の表示欄には、試験モードで動作中であることを示します。

通常モードに戻るには、通常モードボタンをクリックします。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

4-3-4 接続状態について

火災防災情報収集ユニットと正常に通信を行っている場合には、‘Online’を表示し、通信が途絶えた場合には、‘Offline’を表示します。通信が回復すると‘Online’を表示します。

4-3-5 動作状態について

通常の運転状態の場合には、‘通常モードで動作中です。’を表示します。試験モードで運転している場合には、‘試験モードで動作中です。通常モードボタンで通常モードに戻ります。’を表示します。それぞれ、通常モードボタン／試験モードボタンをクリックすることによって状態を切り替えることができます。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

4-3-6 履歴表示

発生した火災防災警報の履歴を表示・印刷します。

履歴ボタンをクリックすると図8を表示します。

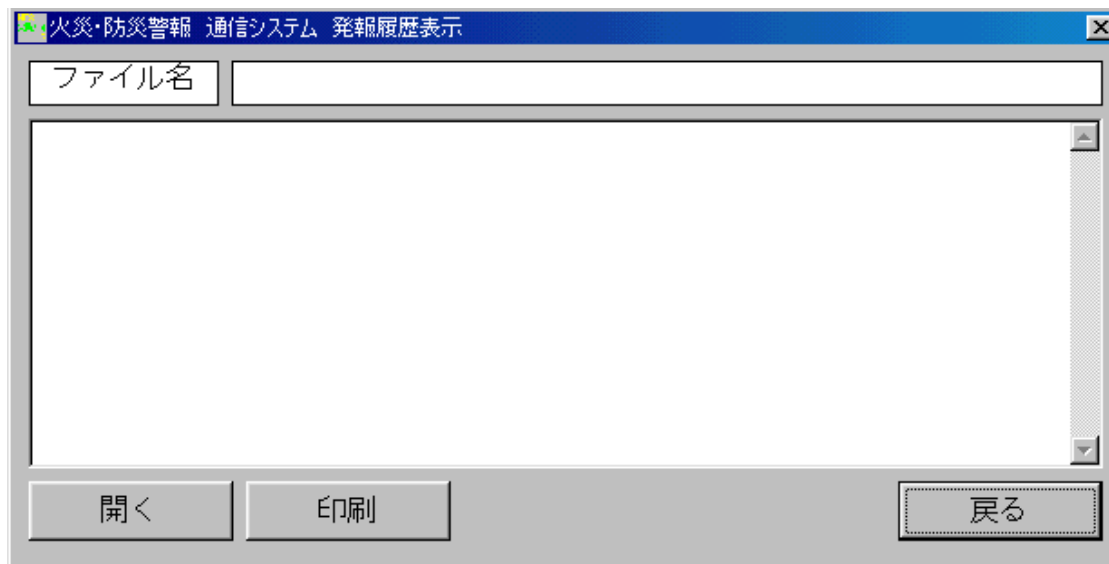


図8 履歴ファイル表示画面

履歴ファイルを開くには、図8の開くボタンをクリックします。

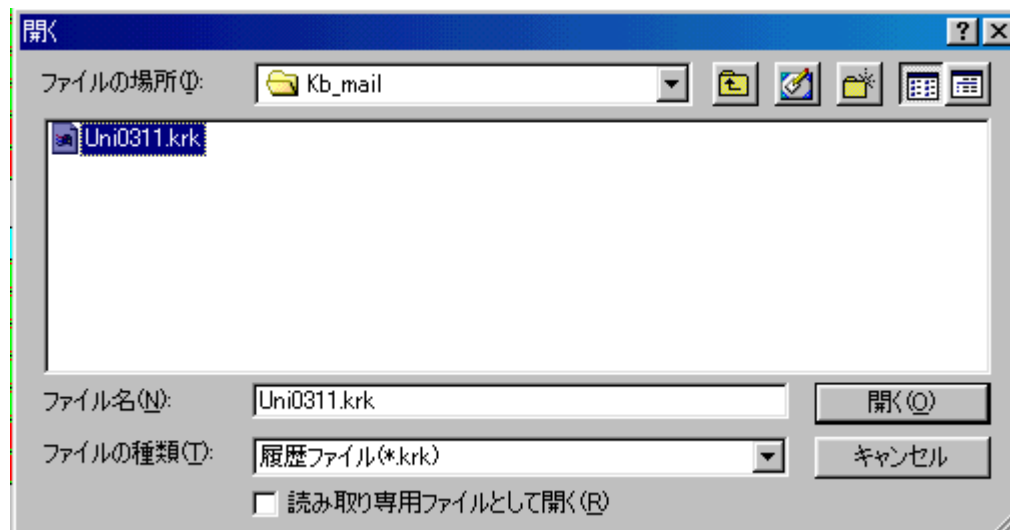


図9 ファイル選択画面

図9を表示します。表示しているファイル名は選択した履歴ファイルを示しています。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

履歴ファイル名は、図10に示す要素で構成されています。

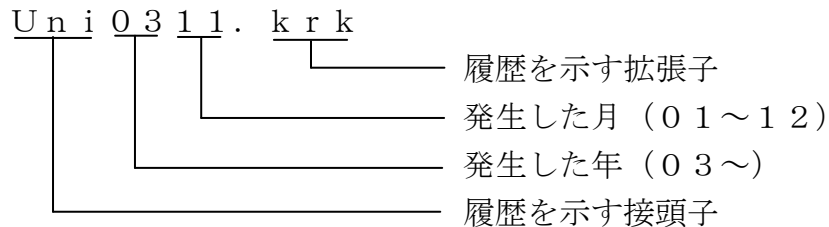


図10 履歴ファイル名称の構成

内容を表示したい履歴ファイルを選択し、開くボタンをクリックすると図11を表示します。

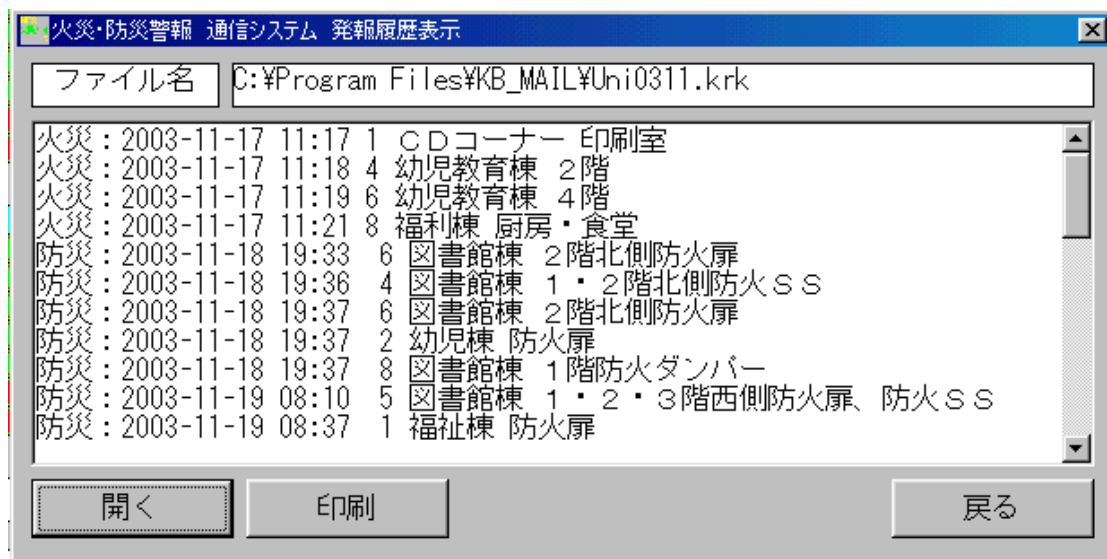


図11 ファイル内容表示画面

選択した履歴ファイルの内容を表示します。スライドバーを操作することで、すべての内容を確認することができます。

表示している内容を印刷することができます。‘4-3-2 印刷について’で記載した印刷ボタンの状態に関わらず印刷することができますので、プリンタをオンラインにし、A4用紙をセットしてから印刷ボタンをクリックしてください。印刷を開始します。

履歴表示を終了し、通常モード画面に戻るには、戻るボタンをクリックしてください。

なお、履歴表示状態でも火災防災警報が発生した場合には、メール送信を行います。

4 火災防災警報通信システム用専用ソフトウェア

4-3-7 火災防災警報通信システムソフトの終了

火災防災警報通信システムソフトを終了する場合には、図2の終了ボタンをクリックしてください。OSに戻ります。

この状態で、火災防災警報通信システムソフトを起動する場合には、図12に示すようにスタートからメニューをたどります。

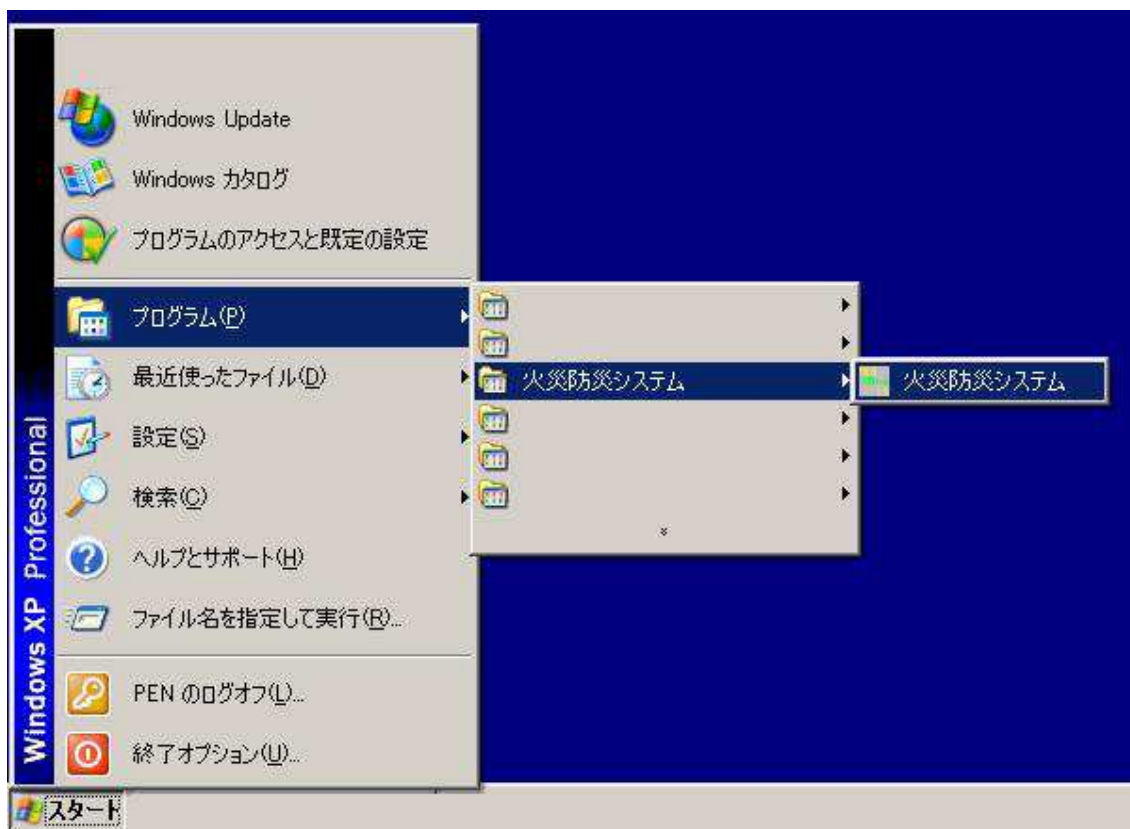


図12 スタートからの起動

メニューツリーをたどって‘火災防災システム’を起動してください。

5 火災防災警報通信システム運用上の注意

火災防災警報通信システムを円滑に運用するために下記の点についてご注意願います。

- 火災防災情報収集ユニット、プリンタ、データ処理装置（パーソナルコンピュータ）、モニタ、携帯情報端末の電源は入っているか。
- データ処理装置に正しくネットワークケーブルが接続されているか。
- データ処理装置に正しくプリンタケーブルが接続されているか。
- データ処理装置に正しくモニタケーブルが接続されているか。
- 火災防災情報収集ユニットに正しく通信ケーブルが接続されているか。
- 火災防災情報収集ユニットが正常に動作しているか。火災防災情報収集ユニットの電源が入っていて、正しく通信ケーブルが接続されているにも拘らず接続状態の表示が‘Offline’を表示したままの場合には、火災防災情報収集ユニットの故障が考えられます。
- 不具合が発生した場合には、まず上記の点を確認してください。電源やケーブルの接続等に誤りがなく、尚正常に動作しない場合には、NEシステムズ株式会社までご連絡してください。

6 その他の注意点について

- 火災防災警報通信システムを既存のネットワークシステムに組み込む際には、IPアドレス、メールアカウント等の設定が必要です。あらかじめ、ネットワーク管理者にそれらの事項を確認しておく必要があります。
- ネットワーク通信を無線で行う場合には、鉄筋コンクリート等により所期の通信速度が得られずに接続のタイムアウトになる可能性があります。この場合、図13のように通信が停止し、火災防災警報のメール送信動作が停止してしまいます。通信の速度（転送レート）がそのような状態の場合には、有線による接続を行ってください。

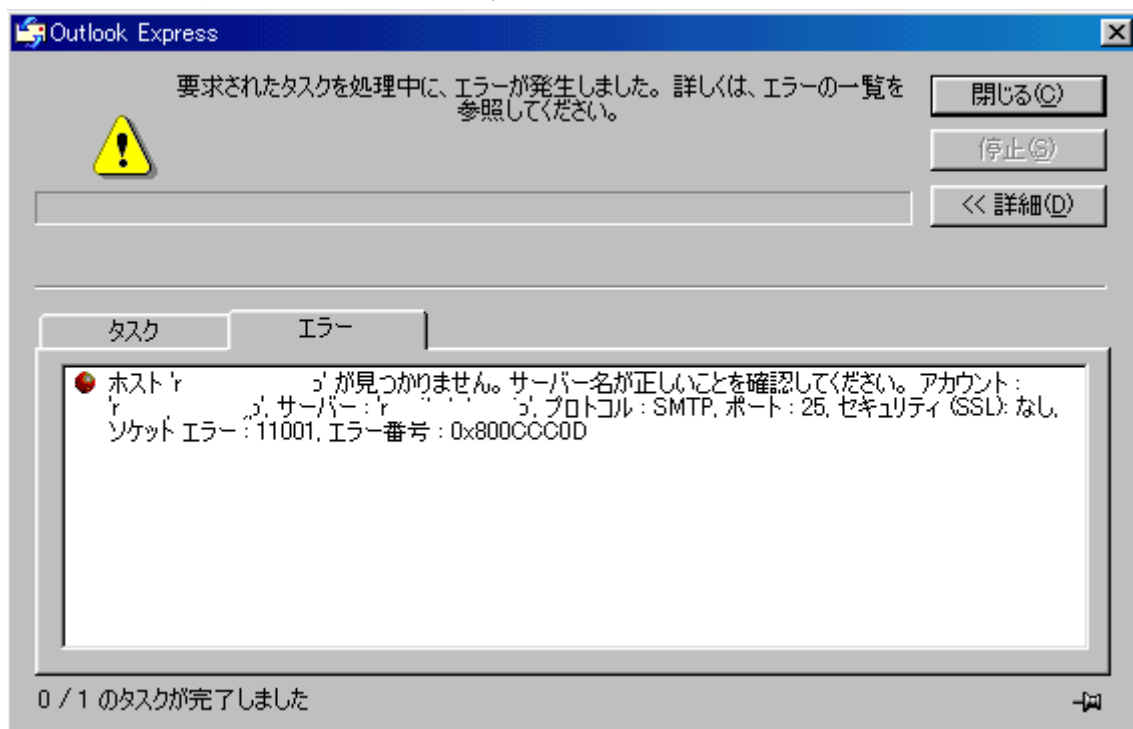


図13 通信エラー画面

通常の動作中に、この画面を表示した場合には、閉じるボタンをクリックし、この画面を閉じます。火災防災警報通信システムに戻ります。ネットワークに不具合が発生している場合がありますので、ネットワーク管理者に連絡して確認してください。なお、有線で接続している場合でも、一時的なトラフィックの多い状態で、火災防災警報のメールを送信しようとした場合に、一時的に通信できなくなり、図13の状態になる場合があります。

第3版 平成24年 9月 1日

お問い合わせは

NEシステムズ

ホームページ : <http://www.nesystems.jp> e-Mail : information@nesystems.jp

〒065-0033札幌市東区北33条東12丁目3番13号 電話:011(214)1146 FAX:011(752)7746

NESystems